

月刊 さいとう健 けん

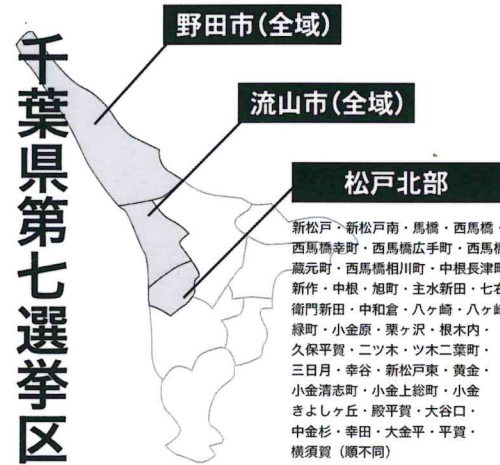
2007年11月「憂党」政権転落の危機を憂える

明日の選挙 今宵のめ



- さいとう健プロフィール -

昭和34年 6月14日東京生まれ(48歳)
 昭和58年 通商産業省入省
 平成4年 中小企業庁金融課
 平成11年 通商産業大臣秘書官
 平成15年 経済産業省電力基盤整備課長
 平成16年 埼玉県副知事
 平成18年 衆議院千葉7区補欠選挙にて955票差で惜敗
 [趣味] 読書、子供と遊ぶこと、ハンドボール
 [家族] 妻、一男一女、オス犬一匹 [好きな人物] 原 敬
 [現在] 自由民主党幹事長政策補佐 多摩大学大学院客員教授
 東京財団研究員



さいとう健事務所では、活動のお手伝いをしていただけるボランティアを募集しています。
 ミニ集会の開催、ビラ配布作業、ポスター掲示などご協力が可能な方は、下記の連絡先までご連絡を下さい。お待ちしております。

さいとう健 後援会事務所

〒270-0137 千葉県流山市市野谷 665-40-103
 TEL : 04-7157-6223 FAX : 04-7157-6224
 E-mail : info@saito-ken.jp

『憂党』— 政権転落の危機を憂える —

さいとう 健

自由民主党は生まれ変わらない限り、政権転落となるでしょう。生き残るためには、政策云々もさることながら、何よりも、自民党の政治家が政治家としての基本原則に立ち戻ることです。

第一に、官僚と自民党政治家との関係を、張り詰めた緊張感あるものに変えなければなりません。防衛省事務次官の一件や社会保険庁

のていたらくなど、最近の官僚はひどすぎます。特に、防衛事務次官は、昔で言えば武士でありました。武士道は一体どこに行ったのかと言いたい。

官の不祥事には厳罰をもって臨む。一方で、行政をうまく運営してゆくことも責任政党の役割です。から、いい仕事をした公務員に対してはきちんと評価する。要すれば、官の信賞必罰を徹底し、政治と官のもたれ合いと見られるようなことを一切排してゆく、それが

できなければ、自民党は生き残れません。

そのためには、第二に、自民党の政治家自身も身を律し、信頼に足る存在にならねばなりません。「政治と金」の問題でいつまでもガタガタしているようでは、情けなさ過ぎます。官の方だって、お前たちには言われたくないよとなってしまう。もう「政治と金」の問題はいい加減にスパッとけりをつけて先に進み、この問題

(裏面へ)